



発行日2013年9月23日
 vol. 169
 (C) UNN2010
 U N N



大学での勉強において、避けて通れないレポート課題。迫る締切に禁じ手の「コピペレポート」に手を出した経験のある人も少なからず存在するだろう。これに対抗し、大学全体としてコピペレポート判別システムを導入したのは阪南大。本紙取材班は実際にシステム構築を行った花川研究室に取材した。（良くも悪くも）レポート課題に悩む大学生必見。

【大学の提出課題における

「コピペレポート」問題について】

UNN関西学生報道連盟 FOCUS取材班

◎コピペレポート判別システムとは？

判別システムの原理は次の通り。まず、レポートの文章からキーワードとなる「特徴語」を抜き出す。正確性を向上させるためにレポートを複数のブロックに分けたうえで、特徴語を利用しながら Google で検索する。ウェブ上から類似の文章が見つかった場合に、高い割合で類似が認められた箇所をコピペの可能性あり、と判断する仕組みだ。

◎コピペとは？

コピー＆ペーストの略。

◎コピペレポートとは？

ネット上の文章をコピーし、それを自分で書いたかのように偽ったレポート。ルールを守った引用とレポートでのコピペは別物である。

ほとんどのレポート課題においてコピペレポートは禁止され、コピペと判断された場合には単位が取得できない。

このコピペレポート判別システムは 2005 年に開発が進められた。途中、開発中断を挟み 2010 年に完成。阪南大内にあるパソコン およそ 400 台を夜間に稼働させ、10000 本のレポートを 4 時間ほどで判別できる。開発者の花川典子教授が「検出精度は 80% くらい」と胸を張る自信作だ。実際に導入前後でのコピペと判断された箇所のあるレポートの数は 10% ほど減少。およそ 1000 本分のコピペレポートを「撃退」し、効果は抜群だ。

◎判別システムの真の目的とは？

導入当初は学生からあまり歓迎されなかったこのシステム。しかし、この判別システムの目的はコピペレポートを探し学生を処罰することではない。高い精度で判別することによって、コピペしにくい状況を作り、レポートや大学教育の質を高めることが狙いだ。「良いレポートとは自分の手でたくさん調べ、下手な文章でもいいので自分の言葉で書いたもの」と花川教授は話す。検索エンジンの力を借り、他人の言葉を並べただけのコピペレポートを提出しても得るものは何もない。コピペレポートを阻止するこのシステムは学生への「愛のムチ」なのである。

大学での講義の集大成として課されるレポート課題。これは、つまりレポートとは大学教育そのものである、と言い換えることができるだろう。「いろいろな媒体から得た知識を、自分の頭で思考し表現できる力を大学で養ってほしい」と花川教授。大学での学びを有意義にするためにも、レポートは自分の手と頭を使って書き上げたいものである。有意義な大学生活はコピーもペーストもできないのだから。
 (聞き手=竹内勇人)

UNN関西学生報道連盟

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式 HP) <http://www.unn-news.com/>
 ■共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-24 ダイニホンビル 4F
 (TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com

FOCUS は

神戸大学ニュースネット委員会
 同志社大学 PRESS 編集部
 NEWS 立命通信社
 関学新月通信社
 大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムス編集部
 神戸女学院大学 K.C.Press 編集部
 京都女子大学藤花通信編集部
 京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです